

# 「レタス黒根病（仮称）」について

平成28年頃から県東部のレタスほ場において、レタス根腐病とは異なる原因による萎凋症状等の障害が発生しました。長野県野菜花き試験場佐久支場において、原因究明に取り組んだところ、本県未確認の土壌病害の発生が疑われました。このため、根部から分離された糸状菌をレタスに接種した結果、同様の病徴が再現され、同じ菌が再分離できたことから、土壌病害であることが明らかとなりました。分離菌は千葉大学において、平成30年9月に *Thielaviopsis basicola* であることが確認されました。

本病は、群馬県において国内初確認され本年5月に特殊報が出された。その後、静岡県と本県から本年11月、茨城県から平成31年1月に特殊報が出されています。

## 被害の様子

- (1) 地上部では外葉の黄化、生育遅延などが認められ、症状が進行すると結球葉が萎凋し、小玉化します（図1）。なお、地上部の病徴は認められない場合もあります。
- (2) 軽症株では根の一部が帯状にわずかに褐変、隆起し、表面に亀裂が生じます（図2）。中～重症株では帯状の褐変が明瞭になり（図3）、根全体が黒変します（図4）。また、根部の症状は表面に限られる場合が多く、主根内部に褐変が観察されることはまれです。
- (3) 根腐病等の土壌病害を併発し、重症化することがあります。



図1 地上部の症状



図2 根部の病徴（軽症株）



図3 細根の病徴（中～重症株）



図4 根部の病徴（中～重症株）



図5 菌糸の形態（厚膜孢子）

（野菜花き試験場佐久支場 提供）

## 伝染経路と発生生態

- （1）病原菌は、糸状菌の一種で、土壌伝染します。
- （2）病原菌は、罹病部に分生子や厚膜孢子（図5）を形成し、罹病残渣とともに土壌中に残留し伝染源となります。なお、厚膜孢子は土壌中に長期間生存が可能です。
- （3）本病に対しては、品種間で罹病性に差異があることが示唆されています。
- （4）本病原菌はこれまでに、たばこ、にんじん、スミレ類、ゼラニウム、オクラなどの病原として報告されています。
- （5）分離菌をキャベツ、はくさい、ブロッコリーに接種しましたが、これらへの病原性は認められませんでした。

## 防除の方法

- （1）現時点（平成30年11月15日）では、本病に対する登録薬剤はありません。
- （2）連作により土壌中の病原菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避けてください。
- （3）本病の発生が確認されたほ場での作業終了時には、トラクター等の農機具類、長靴など土壌が付着している可能性のあるものについては、ていねいに洗浄して、他のほ場に拡散しないようにします。また、明渠を設置するなどして雨による土壌の流出を防止してください。

疑わしい症状を見つけたら、最寄りの農業改良普及センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所（東北信）Tel.026-248-6471（中南信）Tel.0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 平成31年3月作成